

勿凝学問 114

おっと、おもしろい SICKO の感想文発見！

2007年11月10日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

今日は十一月一日なのに先月末締め切りの仕事を三つ、四つかかえている。そろそろひとつでも終わらさねばと思い、日本医師会から送られてきていた封筒をながめてみる。

執筆しなければならぬ文章は、「各界有識者からの提言——オピニオン」というコーナーらしい。うっ、知らなかった——有識者(?)からの提言！

「有識者と呼ばれて、よく、みんな平気でいられるなあ」などとつぶやいているのを見ている僕のまわりの学生は、この有識者コーナーに載った僕の文章をみて、「よっ、有識者!？」とかなんとか言っつて僕をからかうに決まってる。困ったぞ、これは。

でっ、とりあえずどんなことをみんな書いているんだ——と思って、同封されていた一月五日号を読んでみた。この時の有識者は、一橋大学国際・公共政策大学院教授の井伊雅子氏。読んでいて、これはおもしろいと思って、勿凝学問 114 に取りかかる。

なにも語りません。読んでください。

「マイケル・ムーアはジャーナリストとしては失格だと思っています。それは彼の映画が事実無根であるとかウソだといっているじゃないかと、本来入れるべき事実やデータを意図的に落として作品を作っている。確かにムーアの指摘のとおり、アメリカの医療保険制度には問題があってHMOはサイアクの状態だけど、アメリカの医療技術や製薬技術は世界ナンバーワンなんですよ。映画ではフランスやキューバの医療が天国みたいに描かれているけど、ヨーロッパでも中東でも世界中のお金持ちみんなアメリカで手術を受けたがるんです。：基本的には彼の映画はマユツバに見えるべき映画だと思っただけど、問題提起としてはすごい強い影響がありますね。いろいろなところで論争を引き起こす。今回の映画もそうだけど、あちこちで賛否が真っ二つに割れるんです。アメリカ人だけじゃなくて、映画を見たらアメリカの医療保険はどうなっているのか調べてみたくなるような刺激を与えますよね。だから観客は映画を冷静に見てもいい、そこから自分で事実を調べてほしいと思います」

アメリカは、大変多様性のある国で、一つに括って議論をするところできない国だと思います。私が大学院生活を過ごした中西部のウィスコンシン州の州都マディソンと、世界銀行の職員として過ごしたワシントンDCとでは、医療制度も大きく異なっていました。コネチカット州出身の大学院の同級生は、「ウィスコンシンの医療保険制度(HMO)が主体でした。ほとんども寛容で素晴らしい、大学院生の中に歯を全部治しておこう」と言っていました。私もワシントンDCに住み始めたころは、保険料も高く、医療機関での自己負担も高く、ウィスコンシンとの大きな違いを感じて驚きました。

さて、「経済学者は医療を知らな」と批判をされることも時々あるのですが、**経済財政諮問会議**や**政府の税制調査会**の議論などを見ても、**医療政策や税制に大きな影響を持つのは経済学者です**。経済学者は医療現場を知らない、頭から非難をするだけでなく、日本の医療制度の向上のためにも、ぜひ協力をお願いたします。

最近話題のマイケル・ムーア監督の『Sicko シッコ』という映画を見ました。国民負担率の低いアメリカの医療と、国民負担率の高いヨーロッパ(映画の中では英仏)の医療制度に関して、**偏った先入観で作られた映画ですが、ぜひご覧になって、議論をして欲しいと思います**。映画のパンフレットに、デーフ・スペクター氏がコラムを寄せています。**この映画を正しく見なためにも、ぜひこの映画の魅力を紹介します**。

「昨日の十一月七日、自治体病院全国大会『地域医療再生フォーラム』で、わたくしと討論をした経済財政諮問会議議員の八代尚宏氏が、「アメリカの医療から学ぶべきは学び」と発言されたので、思わず「どこを学ぶんですか？」と尋ねてしまった。「アメリカから医療政策を学ぶ」とすることは、タイタニックの乗組員から操船術を学ぶようなものである」という言葉を引用したこともあるわたくしとしては、アメリカの医療から何を学ばいいのか気になったからである。八代先生は、「高度な医療技術など」と答えられたので、つい「いわたくしは「内生的成長理論が教えるところは、需要が見込めない製品の開発にはR&Dはなされない」ということとして、アメリカのように皆保険でなく階層消費がなされているところだから、高度、高価な医療技術に対するR&Dがなされるわけで、アメリカの医療保障制度とアメリカの医療技術の高度さ高価さは独立ではないですよ・・・」などと言っていると、フロアーにいらっしやったアメリカに長く住まれた経験のある某市の市長さんが、「高度な医療技術と言ってもあの国は一部の者だけが利用できるだけだ。権丈先生がさつき言われた階層消費なわけで、あれはいかん！」となって、話は他のところに行ってしまった（笑）。

ところで、「勿凝学問二二 [医療経済の分析視角と現世御利益](#)」は、これを書いた二〇〇四年十一月三日から遡ること一ヶ月ほど前の九月二十五日にみたある光景が、執筆のひとつのモチベーションになったという経緯がある。その光景とは、「日本経済学会」の場——「白い巨塔」の財前教授のご回診の如く——八代先生を先頭に数人の研究者がグループをなして歩いているシーンであった。

今朝、東京から大阪に向かう新幹線のなかで八代尚宏編『新市場創造への総合戦略』の社会保障に関連するところをバラバラとながめていた。こういう著名な編者や経済学研究者の大方の論調や財界のご意向に沿った研究を——基本的には「問い」を真似——しておけば、少なくともふたつの現世御利益があるように思える。ひとつは、「問い」を自分で作ることでできない研究者でさえ、いとも簡単に論文を書くことが出来るようになり、のみならず論文数を増やすことができるという御利益。そしていまひとつは——別に口にする必要もないと思われるのでご推察に任せるとする。ところがわたくしのようなことを考えていても、現世御利益はあまり期待できないかもしれない。しかしそれでもなお、今日話をしたような方向で医療政策を考えてみたいという奇特な方がいらっしやいましたら、わたくしのごところに連絡頂きたい。お待ちしております。

コメントを終えると、出席者の方々から喜ばしくも、自然と、しかもちよつと盛大な拍手が起こってしまった（笑）。

「日本経済学会」でみたシーンの中に、井伊雅子氏の姿もあった。

¹ Rande, W. ed.(1998), *Markets and Health Care: A Comparative Analysis*, London: Longman, p.1.

先日の「自治体病院全国大会」でも話したように、大切なことは価値観である——大切なことは価値観の共有である。価値観が異なれば、何から何まで異なることになる。そしてどのような価値観が身につくかということは、若いときに経験する教育環境が強く影響しそうなのである。

しみじみと思うことは、大切なことは成人になればある程度固まっている価値観のような気がします。価値観さえ共有できるのであれば、職業を問わず、年齢を問わずですね。そして価値観に与える教育の影響はおそろしく大きい。

権丈(2007)IV巻増補版「おわりに」より

八代氏とその共同研究グループは、医療のみならず年金についても、言っていることがおもしろいほどにわたくしとはまったく異なる(笑)。七年ほど前に「社会保障研究の結論部分に目を通せば、その研究がどのような問題設定でスタートしているのか、そしてその研究者がどのような主義信条をもっているのかは推測がつく。さらにいえば、その研究者の出身大学院や留学生の国のみならず、学部時代の指導教授まで予想ができて、おおよそ外れない」と書いたことのあるわたくしは、次の文章も書いたことがある。

学説史的な概観から帰納してみると、日本の公的年金論議が他国と比べて奇妙かつ自虐的な形になってしまったのは、日本経済新聞社、阪大財政学グループ、一橋年金研究グループの精力的かつ秀でた活躍に原因があったのではないかという作業仮説を立てることができそうなのである(他に村上雅子も含むICUグループというのもあるのだが、ここでは割愛する)。

権丈(2006)III巻「公的年金における世代間格差をどう考えるか——

世代間格差の学説史的考察」180頁

初出 [URL(Labor Research Library), No.11, p.5]

本稿の話題は医療であったが、本稿に登場した八代氏、井伊氏は他に『年金改革論——積立方式へ移行せよ』(1994)を書かれた八田達夫氏を含めて、ICUグループ——このグループは卒後、アメリカの大学院で研究者の訓練をするという特徴を不思議と共有する——にわたくし的には所属する。彼らが、「自分の青春を肯定したいという心理が働いているようなことはよもやあるまいと思う——が、こうした人たちの活動をみていると、捨ててこそ浮かぶ瀬もあれという空也の言葉や、この言葉を人生の指針とした一遍上人の生涯を、ふと思いついてしまおう」というようなことにはまる訳ではなからうとは思っているが……。

さてさて、日医から送られてきた原稿依頼書をよくながめてみると、

² 権丈(2005)「初版(2001)」I巻144頁。初出は、2000年『三田商学研究』第43巻第1号。

³ 権丈(2006)435頁。ちなみに、「今の時代、研究者をめざすなら外国にいきな。だけど修士までは僕のところにいる。その間、しっかりと日本人になることだ」というのが、わたくしの教育方針である。

* カラーの顔写真一枚

と書いてあるではないか。月曜日には、「写真はなしね」と交渉せねばならぬ。それでなくとも、有識者などになりそうなのだから学生になにを言われるか分からんぞ——。んっ？
こんなことやってる暇があるなら、締め切りすぎの仕事をやれって？ 世の中、そううまくいかんもんだよ。

必読資料

勿凝学問一〇四 [マイケル・ムーア『SICKO』の僕なりの見方——社会保障問題とは結局のところ財源調達問題に尽きる](#)